

令和7年度 地域連携推進会議 会議録

1. 日時 2026年2月26日(木) 10時00分～11時30分

2. 場所 スタジオブレーメン越谷2 交流スペース

3. 出席者

- 事業所側：代表取締役 二戸 由起子、後藤 康人、前田 真男
- 外部委員：バストケア訪問看護リハビリステーション 浅坂様、越谷地域生活支援センター 有朋 下平様、相談支援事業所 えび 吉澤様、就労継続支援B型事業所 花キラリ 山岸様、越谷市障がい者等基幹相談支援センター・南部 川嶋様 河内様 古川様、越谷市障害者就労訓練施設 しらこぼと 金田一様、スタジオブレーメン越谷2(下間久里) オーナー 河野様、大里東自治会3班 班長 高山様

4. 報告事項(事業所運営状況)

資料に基づき、令和7年度の運営概況、支援の特色、および今後の事業計画について報告を行った。

- 拠点運営と拡充計画の現況 越谷・春日部エリアにおいて「動物と暮らすグループホーム」をコンセプトに現在4拠点(定員21名)を運営しており、全拠点において満室稼働を継続している。当初からの目標である定員30名体制の構築に向け、スタジオブレーメン春日部2(一ノ割)の隣接地に5名定員の男性棟を新築する計画を進行中である。現在は昨今の建築資材・人件費高騰に伴うコスト調整の段階にあるが、専務取締役(建築士)を中心に、空間の質を維持した上での最適な設計・施工を検討している。また、これとは別に中古物件を活用した4名定員のグループホーム開設も視野に入れ、地域ニーズに即した柔軟な体制整備を進めている。
- 生活支援の特色と「質の向上」への取り組み 入居者様の「日々の暮らし」を豊かにするため、食の充実と体験機会の創出に注力している。食事面では新潟県産特別栽培米の提供に加え、三郷市の就労継続支援B型「ミナラボ」様と連携し、同施設で生産された新鮮な野菜を積極的に活用している。レクリエーション面では、筆文字講師を招いた書初めや節分の恵方巻作りなどの季節行事のほか、2025年10月にはご家族も招いた舞台鑑賞会を実施し、社会参加の機会を広げている。

- **安全管理体制と事故・ヒヤリハット報告** 2025年度の安全管理実績として、ヒヤリハット17件、事故2件（処方変更の確認漏れ、期限切れ点眼薬の提供）を報告した。事故発生時には速やかに医療機関と連携し、健康被害がないことを確認済みである。再発防止策として、服薬管理シートに並べた薬剤の写真をLINEグループで共有し、別拠点のスタッフや管理者が遠隔でダブルチェックを行う多重確認体制を運用している。また、一包化対応が可能な薬局への切り替えを推進し、確認作業自体の精度向上とスタッフの心理的負担軽減を両立させている。
- **人材育成と専門性の確保** 福祉未経験スタッフの採用が多い特性を鑑み、意欲のある職員が専門性を高められるよう、初任者研修等の資格取得費用を全額補助する制度を運用している。
- **地域社会・防災への貢献** 地域の一員としての役割を重視し、来年度からは大里東地区において職員が地区部長に就任する予定である。防災面では、BCP（事業継続計画）に基づき、雨水タンク等の設置、非常食やアルミシート等、防災備品の備蓄、茨城県つくば市での「防災民泊（サテライト避難所）」の整備を進めている。また、ホーム内へのAED（自動体外式除細動器）の設置についても、地域貢献の視点を含め、来年度中の実施に向けて具体的に検討を開始している。

5. 質疑応答および意見交換

【今後の増設と男女区分について】

- **質問：**一ノ割の増設棟（5名定員）は、男女どちらの区分になりますか？
- **回答：**既存棟の隣接地という立地条件を考慮し、男性棟として運営する方針です。
- **補足：**以前、同一棟での男女混合運営を試みた際にプライバシー確保の難しさが浮き彫りになった経験があります。新設予定地は既存の男性棟と隣接しており、生活動線を明確に分けきれないことによるトラブルのリスクを回避するための判断です。

【安全管理の実務体制について】

- 質問： 具体的にどのような手順で誤薬を防いでいるのですか？
- 回答： 準備した薬剤を服薬管理シートに並べ、その写真を撮影して LINE グループで共有しています。現場の担当者だけでなく、他の職員が写真を見てダブルチェックすることで、ミスの未然防止を図っています。
- 補足： 併せて、日付や氏名が印字される「一包化」対応の薬局への切り替えを推進し、確認作業自体の精度を高める取り組みを継続しています。

【地域社会との連携状況（委員間の対話）】

- 質問（福祉関連外部委員から地域住民へ）： 地域住民の立場として、こうした福祉施設に対して要望や懸念事項はありますか？
- 回答（自治会代表）： 自治会の高齢化により役員のなり手が不足していることが大きな悩みです。そんな中、ホームのスタッフさんが大里東地区で「部長」を引き受けてくださるなど、地域行事に積極的に協力してくれており、感謝しています。一生懸命やってくさっているもので、特に注意してほしいことはありません。
- 施設側補足： 開設前後のご挨拶や、トラブル発生時の迅速な戸別訪問を徹底し、地域の皆様に安心していただける「顔の見える関係性」を最優先しています。

【防災・救命設備について】

- 質問： 緊急時の AED 対応や、具体的な防災訓練の予定はありますか？
- 回答： 深田保育所など、周辺の AED 設置場所についてはマップで把握済みです。併せて、来年度にはホーム内への AED 設置を具体的に検討しています。防災訓練についても定期的に実施しており、継続的な備えに努めています。
- 補足（外部委員）： 救命訓練の事例として、他事業所の「しらこぼと」様より、消防署の協力を得てスタッフ全員が定期的に訓練を受講し、有事に備える体制についての共有がありました。
- 施設側追記： 当ホームにおいても、今後の防災訓練の拡充項目として、雨水タンクを活用した「パッククッキング（湯煎調理）」の手法について現在リサーチを進めており、来年度以降、実際の訓練に取り入れていく予定です。

以上